

マウスの父親は、母親が発する超音波やフェロモンに影響を受けて子育てに参加する「イクメン」になることを発見したと、金沢大などの研究チ

金沢大など発表

ームが発表した。8日付の英科学誌ネイチャーコミュニケーションズ(電子版)に論文が掲載される。チームは、子育てには積極的に参加しないが、

マウスも「イクメン」

「妻」との「コミュニケーション」で子育て



子育てに参加する雄マウス
—金沢大提供

母子と一緒に飼うと養育に協力する種のマウスで実験。雄は雌と同じ環境にいるか、雌がいた環境

に置かれた場合には子どもをくわえて運ぶなどの養育行動をとったが、雌や子どもと10分間隔離す

ると興味を示さなくなると、雄が子育てに協力するようになる要因を調べる

ため、雌を透明な箱に入れて音やにおいを感じなくさせたり、雄の視覚や聴覚などを遮ったりしたところ、聴覚や嗅覚などで雌の影響を受けて子育てに協力していた。一方、視覚や触覚は関係してい

なかった。この結果から、雄は雌が発する超音波の鳴き声(周波数38キヘル)や、何らかのフェロモンに影響されて子育てを行うことが分かったという。

金沢大の東田陽博(ぼく)特任教授(神経化学)は「ヒトで例えると、父親を『イクメン』にしたければ、妻は積極的に夫とコミュニケーションをとることが重要かもしれない」と話した。

【鳥井真平】